

焼酎かす有効利用へ 「宇佐バイオガス発電所」オープン

(株)未来電力(大分県宇佐市)

エネルギー総合企業の(株)未来電力が、焼酎かすを活用できる「宇佐バイオガス発電所」(大分県宇佐市)の稼働を開始させた。7月27日には落成式を開催。発電(出力600kW)だけでなく、消化液利用も行う循環型施設として注目を集めている。総事業費は約10億円。パートナー

企業として日本ブライスマネジメント(株)(大分県中津市)がプラントの設計・製造に協力した。同発電所はミカン園跡地に建設され、その敷地面積は約8000㎡。処理能力は1日当たり30tで、主に県内の酒造会社から焼酎かすを受け入れる体制とした。すでに現在、焼酎かすを

はじめ、食品残さなどが1日当たり25tほど入ってきているという。

処理工程は、これらをメタン発酵させてガスを取り出し、発電する流れ。総発電量は年間303万kW時を見込んでおり、場

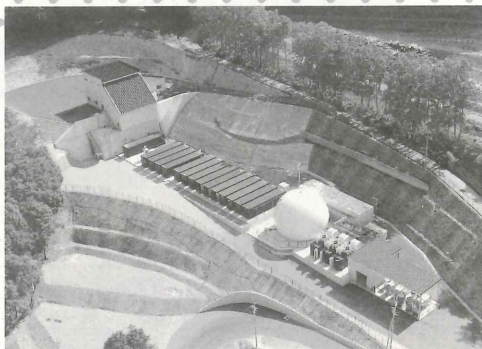
内で使用する分を除き全て九州電力(株)に売電する。固定価格買取制度(FIT制度)を活用し、年間1億2000万円の売り上げを目指す。また、発酵後に出る副産物の消化液については、液肥として、同社の関連会社である(株)未来農林(大分県宇

佐市)が運営するカボス農園(25ha)で活用していく他、地区内の農家には無償提供する。地区外の農家に対しては販売する計画だ。

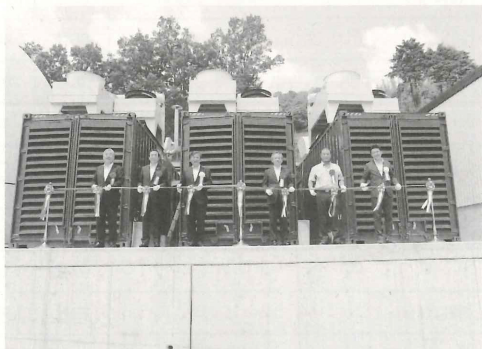
従来、酒造会社から大量に排出される焼酎かすは産業廃棄物として処分され、その処理コストが高いことが課題となっていた。同社はこの点に注目し、同事業の着手を決めた。末宗秀平専務は、「処分施設としてではなく、あくまでも発電所としてしっかり利益を生む継続性のある事業にしたいと考えた。独自の前処理工程を入れることで、効率のよいメタン発酵に成功。利益を生む仕組みを構築することができた」と胸を張る。今後については、「同事業をモデルとして、九州内では焼酎かすの処理に悩む地域に、さらに全国には各地域の特性に合わせたものにして同システムの導入を広げていきたい」と意気込む。

同社は、①国内のエネルギー自給率の向上、②エネルギーの地産地消型社会の実現、③地球環境の保全と持続可能なコミュニティの構築——を目標に掲げ、自然エネルギーによる発電事業を展開。大分県宇佐市内においては、複数の太陽光発電所の施工実績を持つ。W

(本誌・野々垣)



宇佐バイオガス発電所の全景



落成式でのテープカットのようす